



新春 代表取締役 渡邊均 挨拶



謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます。旧年中は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年もより一層のお引き立てを賜りますよう社員一同心よりお願い申し上げます。

さて、今年度の弊社のテーマは『脱炭素社会への貢献』です。当社は1974年創業より地球環境問題が深刻化する中、リサイクル社会への実現に向けた事業活動を行い社会へ貢献して参りました。そして現在は地球温暖化が大きな社会問題となっており脱炭素社会の実現が急務となっています。当社は現在、廃棄物処理・リサイクル事業を基軸にSDG sを支援し脱炭素社会への貢献を図るべく事業を展開しております。具体的には廃棄物から電力をつくる固形燃料を製造し二酸化炭素の発生を抑制することです。

排出事業者のお客様にとりましてはその廃棄物を固形燃料化(RPF)することで二酸化炭素の排出抑制を図り脱炭素化への取り組みに繋がっていくことになります。

また処理コストも焼却や埋立て処理に比べ大幅に削減できますのでメリットはかなり大きくなると思っております。当社としては今後もこの事業の拡大を図りお客様により良いサービスをご提供し社会とお客様へより一層、貢献するよう取り組んで参りますので今後ともご指導、ご鞭撻、ご愛顧を賜りますよう何卒、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役 渡邊 均



当社RPF製造におけるCO2排出抑制



「RPF」とは 主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料です。RPFは石炭に替わるエネルギー燃料として注目されており、石炭と比較したRPFの主な特徴として、

①品質が安定 ②高カロリーで熱量のコントロールが可能 ③安価 ④33%のCO2排出量抑制効果 ⑤灰化率3分の1に抑制

といった特徴があり、石炭と比較すると圧倒的に地球に優しい固形燃料です。

エコ・ファクトリー神々廻の森での
RPF製造により削減されたCO2

2020年: 1,420 t -co2
2021年: 5,054 t -co2

杉の木が1年間にCO2を吸収する量
で考えると、杉の木が約361,000本の
CO2吸収量と同等程度CO2削減
に貢献しております！！



2021年RPF製造量とCO2削減量

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
製造量	475t	504t	446t	425t	401t	484t	608t	551t	701t	718t	648t	690t
CO2削減量	361t	383t	339t	323t	305t	368t	462t	419t	533t	545t	492t	524t

合計 5,054 t -co2



総括

2021年12月現在、RPF製造量は700t/月を達成致しました。おかげさまで、これだけのCO2排出抑制に貢献ができております！2022年春には成形機をさらに1機導入し、RPF製造量は約2倍となる見込みです。これからも㈱丸幸は脱炭素社会に向けた取り組みを継続して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。





第12回社員総会！！



2021年12月3日に社員総会が開催されました。12回目となる今回は、コロナ禍ということもあり、昨年に引き続き、完全リモートでの開催となりました。

冒頭、社長より今年度の方針が発表され、単なる廃棄物処理にとどまらず、世界的に加速する脱炭素化社会に寄与すべく、RPF事業に今まで以上に注力し、ケミカルサイクルの拡大、SDG s の達成に向けて取り組んでいくことが会社としての重要な任務だということを全社員が認識しました。

また、今年度のスローガンは、

「日本一気持ちの良い挨拶をする会社」

となりました。コロナ禍により暗いニュースが多い中、丸幸から日本を元気にしていこうという想いが込められています。弊社従業員が日本一の挨拶を目指し、社内外で邁進する姿をご期待ください。

総会の後は初の試みとなるオンライン飲み会が開催され、普段顔を合わせることの少ない社員でも楽しく懇親も図られ、より一層のチームワークを築くことができました。オンラインということもあり、社員のご家族の方にも参加頂き、会社の取り組みや雰囲気を理解してもらうことができました。



脱炭素推進部創部



脱炭素推進部 部長
佐藤 潤一

新年、あけましておめでとうございます。昨年中は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。2021年10月より新設で“脱炭素推進部”を立ち上げさせていただき部長に就任致しました佐藤潤一と申します。国際社会ではSDG s という大きな目標に向かって進んでおりますが、国内に目を向けてみますと、CO2実質排出ゼロを掲げたカーボンニュートラルへの取り組みが加速しております。我々としまでも、より一層の脱炭素推進と強化を図るべく、当部署を設立させていただく運びとなりました。皆様の周りにおかれましては、環境に関する言葉が多く飛び交っているかと存じます。環境配慮型経営を目指していくために、再生可能エネルギーの活用やESG投資など、それだけ今、環境関連分野にスポットライトが浴びている証拠です。これまでの廃棄物処理は価格競争や単純焼却、埋立といったフローでの処理方法などで、環境への取り組みが具現化されにくい状況でした。これからは2050年のカーボンニュートラルへ向かって、脱炭素社会の構築を業界全体の目標とし、弊社としまでも、廃プラスチック類の資源有効活用や機械設備導入によるCO2排出抑制への寄与、またお客様の成長の礎となり、脱炭素経営へのシフトに尽力できるよう、共々邁進して参ります。脱炭素と資源循環の両立を目指して、最大限のサービス提供ができるよう努めていきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



“新”SDGs車両 納車！！



今年度は、新しく4 t車2台と3 t車1台、10 tウイング車1台の計4台が納車しました！迫力のある車体にブルー＆ホワイトの色合いと丸幸ロゴがとてもかっこいいです！そして、今回は新たにロゴを2つ追加しました！1つ目は当社が取り組むSDG s のロゴ。それから、2つ目は千葉県のマスコットキャラクターであるチーバくんロゴ。当社は千葉県がおもてなし力向上を図るために取り組んでいる、「千葉おもてなし宣言事業者」に参画しております。お客様・地域の皆様に当社の取り組みを理解いただけるよう、また、従業員一同もその一員として携わっていると常に感じられるデザインとなりました。

第2弾！

脱炭素化社会への取り組み



太陽光パネルによる発電

エコ・ファクトリー神々廻の森と千葉栄工場の太陽光パネルは発電所としての機能を持っております。その発電量は昨年実績で神々廻が264.15kw/h、千葉栄工場150kw/hとなり、合計 414.15kwの発電を行っております！



近赤外線自動選別機

2021年3月にペレンク社製のミストラルという近赤外線自動選別機を導入致しました。これまで人の手で分別していたビン・カン・ペットボトルを全て自動で品目ごとに分別し、自社におけるリサイクル率をアップさせました。特に、分別されたペットボトルは弊社栄工場フレークにし、PET to PETの取り組みにも参画しております。また、破袋・除袋機も導入し、除袋されたビニールはRPFの原料とし、無駄のないものとなっております。

